

議 事 録

1. 会議の名称	池田市史編纂委員会
2. 開催日時	平成27年11月25日(水) 午後3時00分～4時26分
3. 開催場所	池田市中央公民館 2階 会議室A
4. 出席者 ※委員長：◎ 副委員長：○	《委員》 小田 康德 ◎ 芝村 篤樹 ○(現代専門部会部会長) 富田 好久 〈事務局職員〉 村田教育長 阪本教育部長 田上生涯学習推進課長 細谷主幹 岩上主事 関根非常勤嘱託 船勢非常勤嘱託
4. 議 題	(1) 平成27年度事業経過について (2) 『池田市史』史料編⑩(現代史資料)の編集・校正について (3) 平成28年度事業計画・予算要求について (4) 今後の市史編纂事業について
5. 議事経過	別紙のとおり
6. 開・非公開の別 ※非公開の理由	公開
7. 傍聴者数	0名

開 会

教育長 市史も『新修池田市史』が出揃い、それに対応する史料編を作成していただき感謝申し上げます。『池田市史』史料編⑩（現代史資料）が、本年度中にとりまとまるということで、今後は、これまでに集めた資料を出来るだけ市民に広めていくことが大きな課題だと思っている。いろいろ難しいこともあるが、今後とも池田市民のためにご支援ご協力をお願いします。

（１）平成２７年度事業経過について

事務局 今年度の編纂委員会は本日が第１回目となる。現代専門部会は１回のみ行い、「史料編⑩」の編纂校正の作業に注力している。

資料の調査として、従前に収集してきた古文書のマイクロフィルムの撮影に伴う作業や、資料の翻刻作業等を行っている。新聞記事の切り抜き作業は市史編纂作業のために中断しているが、刊行が一段落すれば再開する予定。廃棄行政文書の選別収集も行っている。

広報活動として、広報紙への「わがまち歴史散歩 市史編纂だより」の連載を９月以降は中断している。市のHPでのPRは従来通り行っている。また、６月に中央公民館主催で行われた歴史入門講座に講師を２名紹介、盛況であった。

委員長 しばらくは市史の編纂に注力するのも良いかも知れない。

（２）『池田市史』史料編⑩（現代史資料）の編集・校正について

事務局 資料点数が５３０点ほど、５００ページを超える分量である。作業が遅れており、初校の校正が今年中に完了する予定。現在、順次２校が手元に戻りつつある。これまでの市史と異なる校正上の課題が多く発生し、時間が掛かっている。厳しいが、あくまで年度内の刊行を目指して全力で取り組んでいる。

副委員長 「史料編⑩」は、多数の口述資料をはじめ資料点数が多く、それに伴う編集上の困難や、取りこぼしなどの大きな間違いが生じやすい。個人名や表記の間違いも十分注意する必要がある。掲載資料は一次資料が不足しているのが欠点であり、今後は長い時間を掛けて収集しなければならない。なお、掲載の対象となる時期は戦後から２０００年までだが、それ以後も適宜掲載している。

委員長 今後の一次資料の収集については、現代は、学校・会社・商店など、活動主体が増えてきているので、それらの資料をどう収集していくのか大きな課題になるだろう。そういう意味では、「史料編⑩」は完全な史料編ではなく、補訂していかなければならない。

（３）平成２８年度市史編纂に伴う事業計画・予算要求について

事務局 来年度は市史の刊行が終わる大きな転換の時期である。これまで連続の市史の刊行に追われてきたため、資料管理が不十分な状態である。長期的な管理・保存に向けての検討から考えていきたい。

予算については、市史編纂委員会委員の増員、市史のPRのための講座、半

期分の現代専門部会などを想定した内容を要求している。

(4) 今後の市史編纂事業について

事務局 今後の市史編纂事業の案として、来年度から資料の保存の方向性・場所を検討するとともに、レファレンス対応や資料公開の準備も進め、要望が多いダイジェスト版などの刊行も含め、可能なら将来的に実現していきたい。行政廃棄資料の収集は、現在は我々が主として行っているが、将来的には市の文書を扱う部署が中心となって、我々はそれをアシストする側に回っていきたい。

委員長 まずは活動総括をしてはどうか。どういう仕事をしてきたのかということや、編纂された書籍類の中身の検討も必要だ。資料の出所や、次の活動の方向を探る市の基礎資料をつくっても良いのではないか。他の自治体の編纂事業では総括作業がなく、刊行が終わるといきなり編纂室を閉鎖するところが多い。それでは継続性が無くなり、次に立ち上げようとするときゼロから始めないといけなくなる。事務局・編纂委員の人材確保や、資料保管の場所の問題などもあわせて、次年度は検討の年としたい。

副委員長 市制 80 周年記念を一つのメドにして、文書の公開や資料のさらなる収集など、次の事業を含めた大きな問題を検討していくのがいいのではないか。また、廃棄行政文書の取捨については行政全体で早くシステム化する必要がある。

閉 会